

裏が記されている。

熊谷組を後押しした森山氏は幹部に対し、何度も関電上層部の名前を挙げていた。関電OBは「(森山氏)防波堤になれ。案件をよこさないようにしてくれ」と本店から申し渡しがあったことを覚えていた。一方、「森山氏への対応が悪い」と上層部に叱責(しっせき)された社員もいたという。組織として対応せず、森山氏の窓口になる担当者につかず離れずの難しい対応を迫っていた実態が浮かび上がる。OBは「原子力部門の役員クラスが元凶だった」と振り返った。

るはずだ。

森山氏 対人関係というものをな、もうちいとこう、大事に扱わななら、どこに共生や活性や言えるんじや。幹部 おっしゃる趣旨はよく分かりましたんで。

東温・舟券場不同意

賛成派市議8人 市長に説明要請

東温市見奈良での競艇場外舟券売り場設置計画を巡り、加藤章市長が2019年12月に「設置には同意しない」と表明したことを受け、12月議会で計画賛成の立場を示した市議8人が7日、加藤市長に判断理由の具体的説明などを求める申し入れ書を連名で提出した。申し入れ書では、5項目に書面での回答を要望。行政トップとして市の将来を政策的にどのように考えて同意しなかったのか▽設置に反対した市民ら1万7千人余りの署名をどのように精査したのか▽設置に賛成の議会の議決に対し、市長の判断は議会軽視ではないか▽アートウィレッシュとう

17年の空調検査 保安規定を逸脱

伊方B区分異常

県は7日、四国電力伊方原発3号機で2017年10月に実施した前回定期検査の際、重大事故時に中央制御室への放射性物質流入を防ぐ空調装置のフィルター検査を四電が保安規定通りに行っていなかったと発表された。保安規定からの逸脱としてB区分異常(四電からの通報連絡後48時間以内公表)と判断。環境への放射能の影響はないという。県や四電によると、四電は保安規定で、フィルター

検査は燃料を原子炉から取り出した後に実施すると定めているが、前回定期検査は原子炉内に燃料がある状態で検査をしていた。四電は国の新規制基準適用を受けて16年4月、燃料取り出し後に行うよう保安規定を変更したが、17年に続き今回定期検査でも、13日からの燃料取り出し前にフィルター検査をしようとしていた。検査前に作業責任者の四電社員が規定逸脱に気づいたという。

四電は「前回定期検査はチェック機能が働いていなかった」と説明。県は四電に改善を求め、厳重注意した。(森岡岳夢)

【紙面編集】八島大介

◇沖繩の養豚場で豚コレラ疑似 豚コレラ(CSF)に感染した疑いのある豚が沖繩県内の養豚場で見つかったことが7日分かった。国の遺伝子検査の結果が8日午前にも判明する見通しで、感染が確定すれば同県では1986年以来の発生となる。

農林水産省によると、沖繩県内の養豚場から6日に県に通報があり、県の検査で陽性反応が出たという。農水省は感染の疑いがある豚の頭数や、養豚場の場所などの詳細は公表していない。

良い関係を築いていることが評価された。

吉田高は生徒と企業のマッチングフェア開催やインターンシップ実施のほか、工業科を対象に企業技術者らによる実技講習や講演会

県内4団体に 文科大臣表彰

キャリア教育に尽力

選ばれた。文科省が発表した県教委の推薦理由によると、宇和島市教委は2018、19年度に中学生を対象に5日間